

I 「何も思い煩わないで」

1. 思い煩うの原語：分け、分離させ、私達の心をそらさせるものを指す為に使われる言葉。「心があれやこれやに分かれる事」。心が分散する。「心が分かれるのです」(I コリント7：34)。思い煩いとは、すべてを支配しておられる神に心が集中せず、自分の力で何とかしなければと悩み、あれやこれやと心が分かれ、分散し、分裂する事。大切な事に集中できず、心ここにあらずの状態。※私も経験があります。

2. 私達の弱さ：神を信頼する心が裂かれ、分かれてしまう。

①過去への空しい後悔の心。自分を責め続ける。神は、正直に自分の罪を告白する私達を主の十字架の恵みで完全に赦して下さる恵みを忘れる。

②主から目を離して、現在の問題だけに心を奪われ、ふさぐ心。

③将来の事を想像し、膨らませて、どんどん恐れ、心配を自分で大きくしてしまう。聖霊が新しくされた考え方、物事の捉え方の選択が人生を大きく左右する。※すべてを神が支配しておられる事を思い巡らし安んじたい。

II 思い煩わない秘訣。聖書に見事な答えがある。それは、「思い煩わないぞー！」と自分の力で頑張っても無理。「思い煩わない、心配しないぞー」という消極的な方法では解決しない。この方法は、余計に心配事に思いを集中させる。負の連鎖へ。悪いものを出すためには、心の中にもっと良いものを積極的に入れる必要がある。思い煩いの思いを出す最善の積極的な方法は、心の中に神を、神の恵み神による解決の希望を深く思う思いを入れる事。聖書のアプローチ(方法、手掛かり)→「心配しなくてもよいのです(消極的命命)…まず神の国(神を心の王座に迎え神に心を支配していただく)とその義(神の正しさ、御心、神との正しい関係)とをまず第一に求めなさい(積極的命命)。そうすれば、これらのものはすべて(真に必要なもの)それに加えて与えられます」(マタ6：31、33)。本日の4：6でも、まず問題の解決をこうなさいと言われずに、まず、神との関係をしっかりと持つ事が語られる→何も思い煩わないで→「あらゆる場合に、感謝をもってささげる祈りと願いによって、あなたがたの願い事を神に知っていただきなさい(神に心を注ぎ出しなさい)」：6。「あらゆる場合に」：すべての事の中で、何事につけ、どんな事情、色々な苦しみ、厳しい雪、コロナ禍の中でも。「感謝をもって」：これが非常に重要！私達は思い煩いに心が支配されてしまうと(⇨神の国とは神の支配。神の国を求めるとは、思い煩いが心を支配する事を避ける為に、積極的に自分の心の王座に神を迎え、心を神に支配していただく事)、今、現在も与えられている十分な主の恵み(「わたしの恵みはあなたに十分である」II コリント12：9)が見えなくなり、感謝を忘れてしまう。思い煩う困難な中でこそ、御聖霊が与えられる意志、思い、考えで、意識的に主の恵みを数えて感謝する。主の恵み=与えられている食べ物、着物、住まい、命、手、足、目、口、鼻、腰、関節、主の救い、赦し、義認、神との和解、永遠の命、神の子どもとされている恵み、神の大きな愛、主の十字架と復活の恵み、御聖霊の内住、交わり、主を信じる信仰、素晴らしい神を礼拝できる教会、土地、建物、教会の会計、必要の守り、教会での交わり、祈りの支え、人生での良き出会い、ただただ神の恵みで今日まで生かされ神に愛されている事。数えきれない恵み！※4：6の御言葉に従い、祈り会①感謝と②祈って欲しい課題。デボーション(今日まで、各デボーションガイドの申し込み。※私は、主を信じて48年になりますが、毎朝の神との御言葉と祈りの時は喜びと霊的養いの時です。デボーションの御言葉の解説も大きな恵みです。心からお勧めします)の時、ノートに感謝を記し感謝をささげる。その後、課題も正直に祈る。そこに大きな祝福がある。

「主が良くしてくださったことを何一つ忘れるな」(詩103:2)。まず神に感謝する時、私達の心は神に向く。しかし感謝を忘れた課題、要求だけの祈りは、私達の心を神に向けることなく、祈りの中でも、神にではなく、その問題に心が捕われている事がある。だから聖書の順番が非常に大切→「感謝をもって」。「ささげる祈り」：自分の願いを神に告げる前に、まず礼拝と神を崇める祈りをする。神の前に静まり、まず自分が今、偉大な神と向き合っている事を知る。自分が神の臨在される場にいる事を認め、崇敬の心を注ぎ出す。「主の祈り」も同じ。まず「天にいます私たちの父よ。御名があがめられますように(御名が聖なるものとされ、あがめられ、礼拝され、感謝するよという燃えるような求め)」その後半「私たちの日ごとの糧を、今日もお与えください」(マタイ6:9, 11)。次に「願いによって」。願いも正直に祈る事が大切。但し、最初に、願い、要求ではなく、神の恵みを数え感謝し(これは、より良い人間関係にも当てはまる)、神を崇め、今、自分はどんなに素晴らしい偉大な神の前にいるかを自覚し、祈る対象の神を知って初めて願う事ができる。今、心に重荷となっている事柄、問題を具体的に祈る事ができる。心(感情、辛さ、うめき)を注ぎ出すことができる。そのようにして、神のもとに重荷を降ろす。「神に知っていただきなさい」：6→神は全知全能の方なので、私達が祈る前に、すでに私達のすべてを知っておられる。しかし、神は私達の御父として神の子どもである私達を愛しておられるので、私達との交わりを喜び、私達が正直に心を打ち明けて祈り、願いを知らせるのを喜ばれる。神に打ち明ける事は素晴らしい恵み。神とますます親しくなる。神とも人とも親しくするには時が必要。親しくなる条件は、時間と同時に誠実さ。神は私達を心から愛して最善の事をして下さる。
※証し：人生を振り返ると。

Ⅲ「そうすれば、人のすべての考えにまさる神の平安が、あなたがたの心と思いをキリスト・イエスにあって守ってくれます」：7。神の平安は、人のすべての考えにまさるもの。神の平安は、不思議。神が共におられる平安。神が心に与えて下さる平安。神がすべて(苦しみもコロナも私達の人生も、世界の歴史も)を支配しておられると信頼し、安んじる平安。「あなたがたの心(感情、意志等の源泉)と思い(考え、思い。※ここでも「心」だけではなく「思い」とある。感情をコントロールするのは物事、自分をどう思い、考えるかである。自分の力でしか解決しないと考えるか神が支えて下さると考えるかで大きく変わる)をキリスト・イエスにあって守ってくれます(原語：見張る、警備する、守る、保護する)」：7。神の平安は、私達の乱れ易い不安定な心、感情、思い(私達の思いは、想像力で、ますます思い煩いを増長させてしまう)を守って下さる。御言葉の深い点は、神が私達の辛い状況をすぐになくすとは言われてなくて、辛い状況の中でも、その辛い状況に対処する私達の心と思いを守って下さる。ここでも「キリスト・イエスにあって」とある。やはり、私達と主との命のつながり、深い関係が大切。常に、最も大切な事は、神、主との関係、深いつながり。この地上では、皆、困難、問題、悩み、病、弱さがある。その中で、平和の主としっかりつながり、主にとどまり、主に拠り頼む時、神の平安に満たされ、神の平安は、私達の心と思いとを守って下さる。「思い煩いをいっさい神に委ねなさい。神があなたがたのことを心配してくださるからです」Iペテロ5:7。※心の平安、安らぎを求めていた私の証し。

祈り：「自分一人で悩みを抱え込み思い煩うことなく、まず、主の恵みを数え感謝し神から広い視野と心のゆとりを与えられ、次に、今の心配事、願い事を神に正直に祈り、心を注ぎ出し、自分一人で悩みを抱え込み過ぎないで、すべての重荷を神に委ねることが出来ますように。必要なら信頼できる人に悩みを打ち明け、共に神に祈る事が出来ますように。そして、人間の理解を超えた神の平安が、私達の心と思いを主にあって守って下さいますように！」